

饗庭野演習場での実弾射撃訓練は再開せず、中止すること

2025年8月29日

日本共産党滋賀県委員会委員長 石黒 良治
日本共産党滋賀県議会議員団 節木三千代
中山 和行
日本共産党高島市議会議員団 森脇 徹
福井 節子

饗庭野演習場で2月3日に実施された155mm榴弾砲射撃訓練中に着弾が不明となっていた事件について、陸上自衛隊中部方面総監部が7月26日、演習場境界付近で当該不明弾の破片が発見され、事故原因は隊員の「人為的ミス」とする内容の「調査結果及び再発防止策」を発表。同月30日には同演習場での「全火器の射撃の再開」を今城克啓高島市長に依頼。今月22日、来月1日から訓練を再開することを決定したと高島市に通知しました。しかし、事故原因の発表では、不明弾の着弾地を地図上の「予想位置」しか示せない、ずさんな調査結果なのに、事故の原因をこれまで4回の場外着弾事故と同様の「人為的ミス」と断定。このため住民からは「人命に関わるのに、事故調査も再発防止策はずさんだ」「また事故を繰り返すのでは」と怒りや不安の声が続出しています。

饗庭野演習場では2015年の重機関銃場外着弾事故以来、場外着弾事故が繰り返し発生。銃弾による人家の屋根の貫通や乗用車の破損など、人命を奪いかねない重大事故が続き、今回が5回目の事故です。2021年の日米共同訓練期間中に、120mm迫撃砲が演習場外に着弾する大事故が発生したにもかかわらず、共同訓練が継続されました。今回もこれまでと同様に、ずさんな調査と対策での実弾訓練再開は言語道断です。人命よりも軍事訓練を優先する姿勢であり、断じて容認できません。

饗庭野演習場は、射程距離の長い重機関銃、迫撃砲、155mm榴弾砲などの射撃に適さない狭く、人家に接近した演習場です。にもかかわらず事故後も実弾訓練が再開された結果、「人的ミス」による事故が繰り返されています。こうした事態は全国の演習場でも饗庭野だけです。事故の主要な原因は「人為的ミス」ではなく、狭い演習場そのものにあることは明白です。重機関銃、迫撃砲、155mm榴弾砲などの実弾射撃訓練を中止すること以外には、事故の再発を防止できません。今求められているのは、事故の科学的な調査に基づく、事故原因の徹底究明と2度と事故を起こさない対策です。そして、「日米同盟絶対」の大軍拡をやめ、憲法9条を生かした平和外交にこそ全力をあげるべきです。

饗庭野演習場での実弾射撃訓練を中止することをはじめ、下記の内容について、強く求めます。

記

- ① 科学的な調査に基づいて、事故原因を徹底的に究明し、責任を明確にすること。
- ② 饗庭野演習場での実弾射撃訓練を再開せず、中止すること。
- ③ 強い不安を与えた饗庭野演習場周辺の全ての住民を対象にした説明会を開き、謝罪するとともに、住民の声に耳を傾けること。
- ④ 高島市と滋賀県、防衛省が交わしている「覚え書」は事故時の連絡体制と事故後の立ち入り等が主な内容になっている。5回に及ぶ着弾事件の反省の上立って、住民の安全を守る内容に抜本的に見直すこと。
- ⑤ 演習場防音対策事業を進められたが、対象集落から1kmも離れていない集落が対象外となっていることから毎年、当該自治会から対象の見直し要望が出されている。住民の要望にこたえること。
- ⑥ 演習場隣接の保安用地5集落210筆280haの賃貸契約更新について、借地契約期間は民法の50年上限ありきで臨むのではなく、所有者の意思を尊重すること。また賃借料は適正額に改定すること。
- ⑦ 日米一体の「敵基地攻撃」態勢の構築に向けた、自衛隊と米軍の共同演習が拡大強化の一途をたどっています。饗庭野演習場で日米共同訓練、日米豪など多国間訓練は行わないこと。

以上